



鳥瞰パース



おおやねストリート



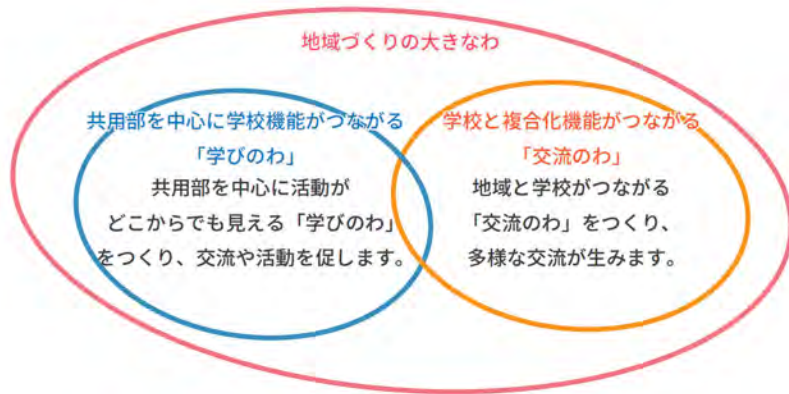
グラウンドからの校舎



みんなのストリート



メディアストリート

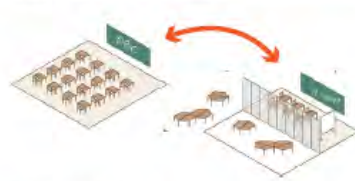


(1) 自分らしさと夢を育む、学びにあふれた学校

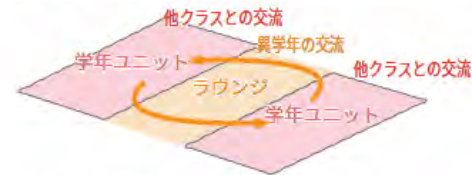
これからの教育に対応できるよう、多彩な学びや興味に出会い、多様な学習が行える環境を整備し、一人一人が自分らしく生き生きと過ごすことができる学校をつくりたい。



1 フレキシブルな空間



2 同学年・異学年交流



3 地域交流を通じた学び



(2) 地域との共創を実現する学校

校内に小学校区を基本単位とする小学校区コミュニティを構築するための拠点や、子どもの居場所を併設してそれぞれの活動を支えるとともに、学校や地域をはじめ多様な主体が連携する場をつくりたい。



4 施設の共用



5 地域全体で子どもを育てる



6 地域活動の拠点となる



(3) ふるさと半田を愛する心を育む学校

現校舎の記憶や半田らしさを取り込み、子どもたちや地域の利用者が、「おつひ」らしさや半田らしさを感じて郷土愛を育む学校をつくりたい。



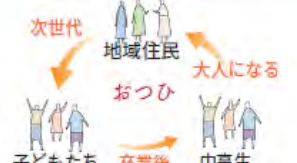
7 記憶を継承し次世代へつなぐ



8 半田・おつひらしさ

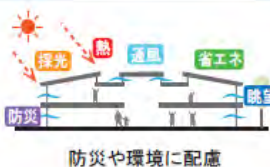


9 郷土愛を育む

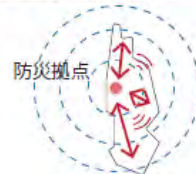


(4) 地域や環境を守り次世代に継承できる学校

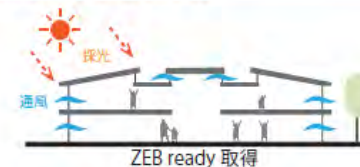
災害時における避難所としての利用や環境・景観への配慮といった社会的要望に対応し、長く使用できる学校をつくりたい。



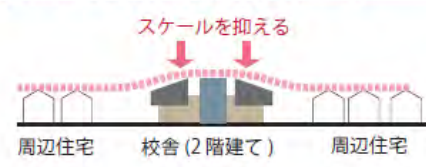
10 地域を守る防災拠点



11 環境にやさしい学校

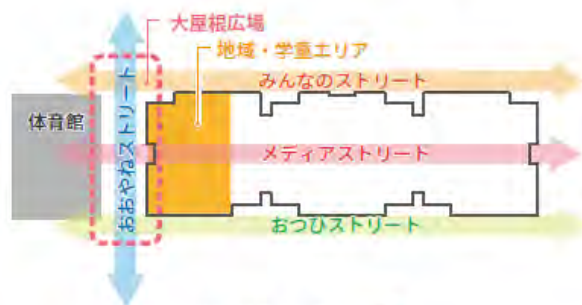


12 まち並みに調和したスケール



(1) 地域と学校をつなぐ4つのストリート

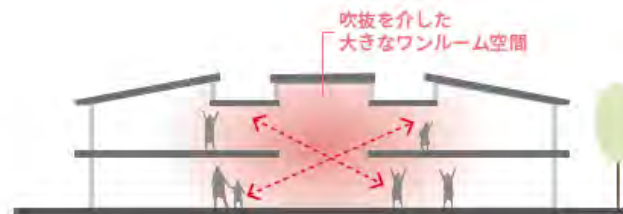
地域と学校の交流の仕掛けとして、敷地内に4つのストリートを計画します。「おつひストリート」「メディアストリート」「みんなのストリート」は「おおやねストリート」と交わり、地域活動の拠点として交流の生まれる計画とします。



4つのストリートの配置

(2) 地域と学校の新しい交流・学びが生まれるワンルーム

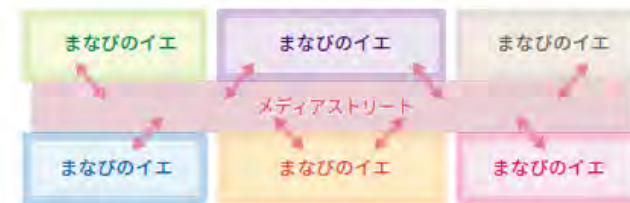
校舎は、中央のメディアストリートを介した大きなワンルーム空間とすることで、子ども同士だけでなく、学校と地域も一体空間の中で過ごすことができ、新たな交流や学びが生まれやすい計画とします。



ワンルームの建物

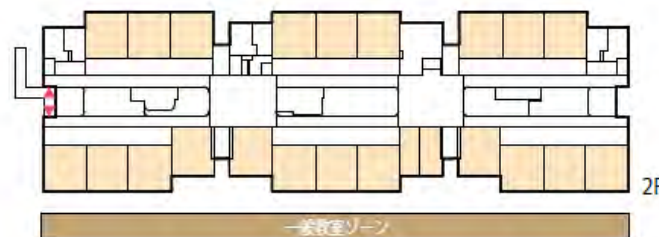
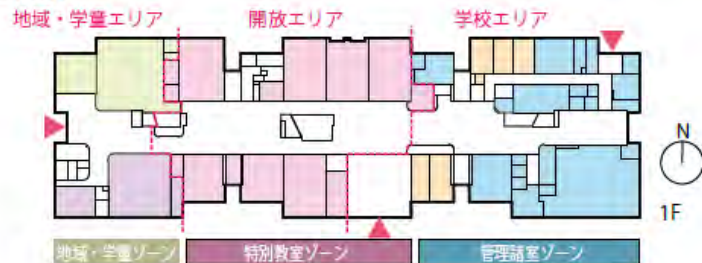
(3) ストリートに面した様々な学びのイエ

中央のメディアストリートは、様々な活動や学びがあふれるストリートとして計画し、ストリートに面する教室を児童の日常生活の場であるイエととらえます。様々な学びや活動の場となるイエがストリートに面して並ぶことで、多様な活動や学びがあふれるストリートとします。

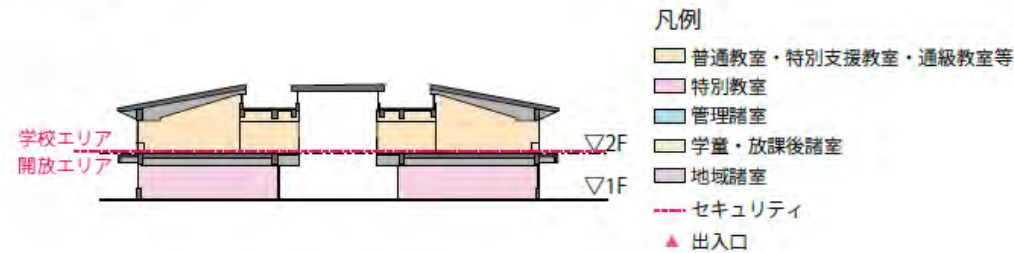


ストリートとイエの構成

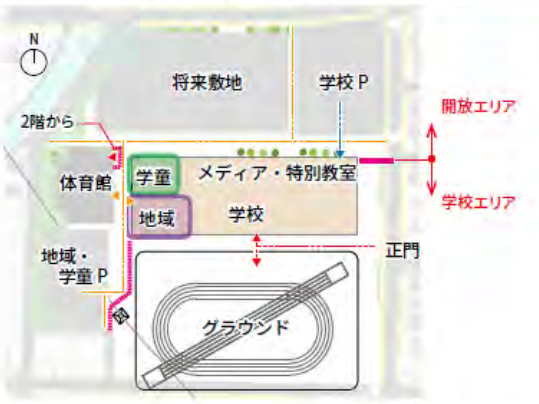
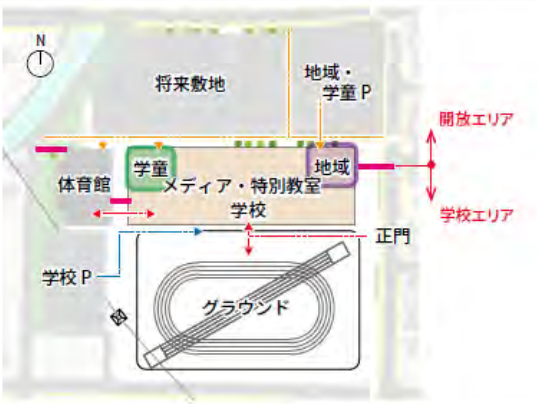
平面構成



断面構成



		一文字型案	コの字型案	
配置のポイント		旧校舎南側配置	敷地西側配置	
工 程 S T E P	凡例	<p>STEP1 ①外構整備1</p> <p>STEP2 ①校舎建設 ②外構整備2</p> <p>STEP3 ①既存校舎解体 ②外構整備3</p> <p>完成</p>	<p>STEP1 ①外構整備1</p> <p>STEP2 ①校舎建設 ②外構整備2</p> <p>STEP3 ①既存校舎解体 ②外構整備3</p> <p>完成</p>	
	凡例	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 歩行者（児童） ▲ 歩行者（地域・学童） ▲ 歩行者（教職員） ▲ 教職員車両出入口 ▲ 地域・学童車両出入口 ▲ 給食搬入 ▲ 工事車両 — セキュリティライン 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 歩行者（児童） ▲ 歩行者（地域・学童） ▲ 歩行者（教職員） ▲ 教職員車両出入口 ▲ 地域・学童車両出入口 ▲ 給食搬入 ▲ 工事車両 — セキュリティライン 	
配 置 ・ 内 部 イ メ ー ジ	凡例	<p>平面構成のイメージ</p>	<p>平面構成のイメージ</p>	
	案の特徴	建物中央の東西方向に細長い共用部を設け、共用部に沿うように教室を配置。	○ 建物中央に共用部を設け、共用部を囲うように教室を配置。	
比 較 検 討 項 目	セキュリティ	地域・学童でまとまったセキュリティを構成できる。	○ 地域・学童でまとまったセキュリティを構成できる。	
	外部動線	児童	既存と大きく変わらない。	○ 校門から昇降口までの距離は少し遠くなる。
		教職員	駐車場から職員室までの動線は長くなる。	△ 駐車場から職員室までの動線は比較的短く計画可能。
		地域・学童	地域・学童の歩行者動線を東側の道路から確保可能。	○ 地域・学童の歩行者動線は原則北側からのみとなる。
		給食・来客	給食搬入は北側、来客は東側道路からとなり、児童との動線は交錯しない。	○ 給食搬入や来客は南西側の駐車場からとなり、児童との動線は交錯しない。
	内部動線	校舎が東西に長くなることで移動距離が長くなる。	△ 比較的短い移動距離とすることができる。	
	駐車場	駐車場をまとめて確保することで、動線が明確化。	○ 駐車場をまとめて確保することで、動線が明確化。	
	体育館との関係性	建物の東端からは移動距離が長くなる。	△ 移動距離は比較的短く計画可能。	
	普通教室の環境	普通教室を全て2階に配置する場合は、南、北向きに配置し、最低2学年が北向きとなる。	○ 普通教室を全て2階に配置する場合は、東、南、北向きの3方向の普通教室がうまれる。	
	グラウンドの環境	オーソックスな校舎南側に東西に長いレイアウトで、70m×110m程度確保可能。	○ 校舎東側に南北に長いレイアウトで、70m×110m程度確保可能。	
建物の環境	日射負荷の大きい東西面の外壁が小さく計画可能。	◎ 日射負荷の大きい東西面の外壁が大きくZEB Ready達成に工夫が必要。		
複合施設としての在り方 ：学校との一体感	建物中央にメディアスペースを設け、メディアスペースを中心に学校と一体感のある施設が計画可能。	○ 建物中央にメディアスペースを設け、メディアスペースを中心に学校と一体感のある施設が計画可能。		
将来用地の在り方 ：複合施設との一体感	校舎によって学校のグラウンドなどの屋外スペースと北側用地が明確に分けられる。	○ 学校のグラウンドなどの屋外スペースと北側用地の一体感がある。		
コスト	1	○ 1.15（ルーバー等による日射遮蔽・断熱厚さ・東向き教室のハイサイドライト等）		

案	① 地域・学童を北西にまとめる		② 地域・学童を南西にまとめる	
				
セキュリティ	地域・学童でまとまったセキュリティを構成できる。	○	地域・学童でまとまったセキュリティを構成できる。	○
地域・学童、学校運営	地域・学童は単一業者による一体運営も可能。	○	学校エリアとグラウンドの一体感が弱くなる。	△
駐車場	地域エリアが道路に面し、北駐車場からの動線が明確化。教職員は駐車場が遠い。	△	地域・学童、教職員が最短ルートで建物へアクセス可能。	○
地域・学童へのアクセス	北からのアクセスに限られる。	△	北東と南西の対角からアクセスが可能。	○
	③ 地域・学童を西にまとめる		④ 地域・学童を東と北西に分ける	
				
セキュリティ	地域・学童でまとまったセキュリティを構成できる。	○	地域・学童でそれぞれセキュリティが必要。	×
地域・学童、学校運営	単一業者による一体運営も可能。 体育館への児童動線は2階からの専用動線を設ける。	○	地域・学童が分散するため一体運営は困難。 学童へのアクセスは建物を東西に横断する必要がある。	×
駐車場	地域・学童、教職員が最短ルートで建物へアクセス可能。	○	地域エリアが道路に面し、北駐車場からの動線が明確化。教職員は駐車場が遠い。	△
地域・学童へのアクセス	北東と南西の対角からアクセスが可能。	○	北からのアクセスに限られる。	△

配置計画



動線・ゾーニング

- ← 教職員動線
- ← 児童動線
- ← 地域・学童動線
- ← 給食搬入動線



地域の方が、北側からも
訪れやすい動線を確保します

児童と動線が交わらないよう
東側にあった車両入り口を
北側に配置します

ポケットパーク
交差点の角地は
ポケットパークを設け
地域に開放します

地域・学童ゾーンへ
アクセスしやすい
敷地南西に配置します

屋外倉庫・トイレ

散策路
歩道がない敷地南側には
安全性を考慮し
散策路を整備します

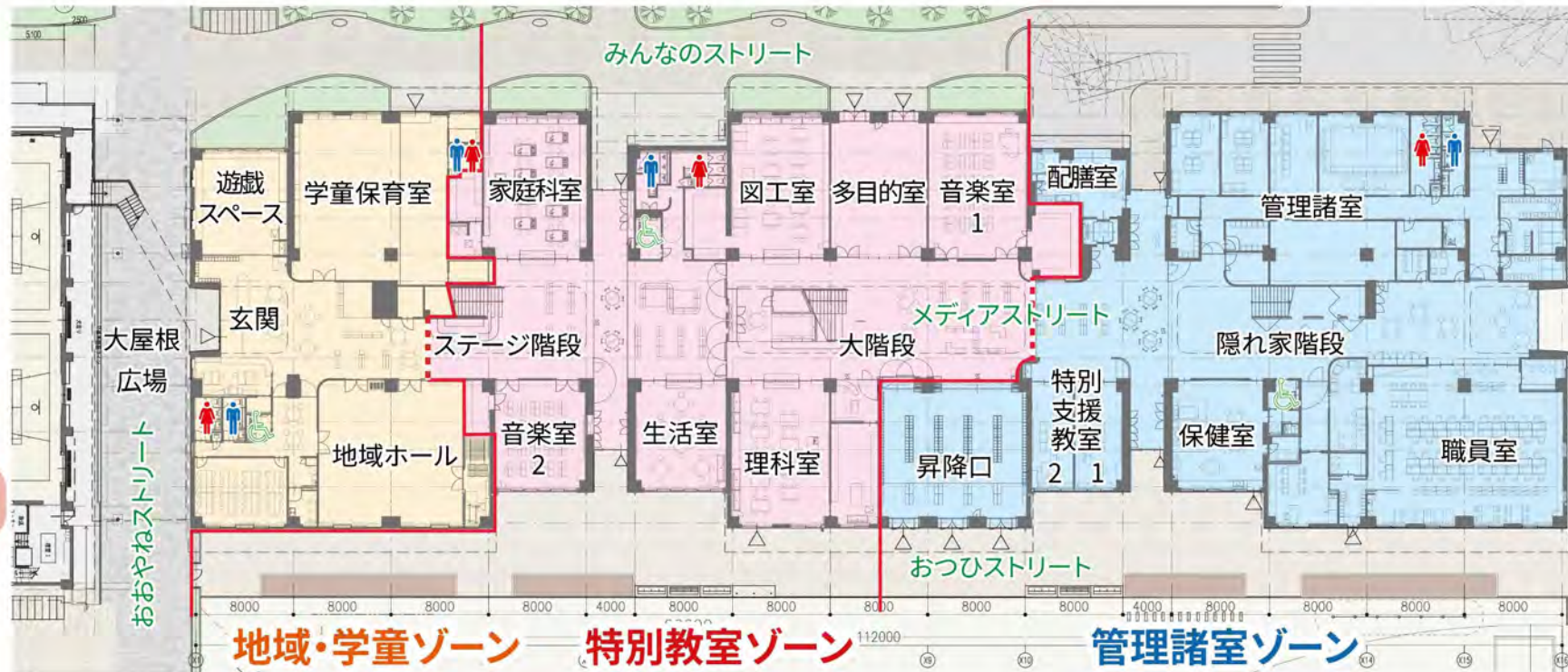
平面図



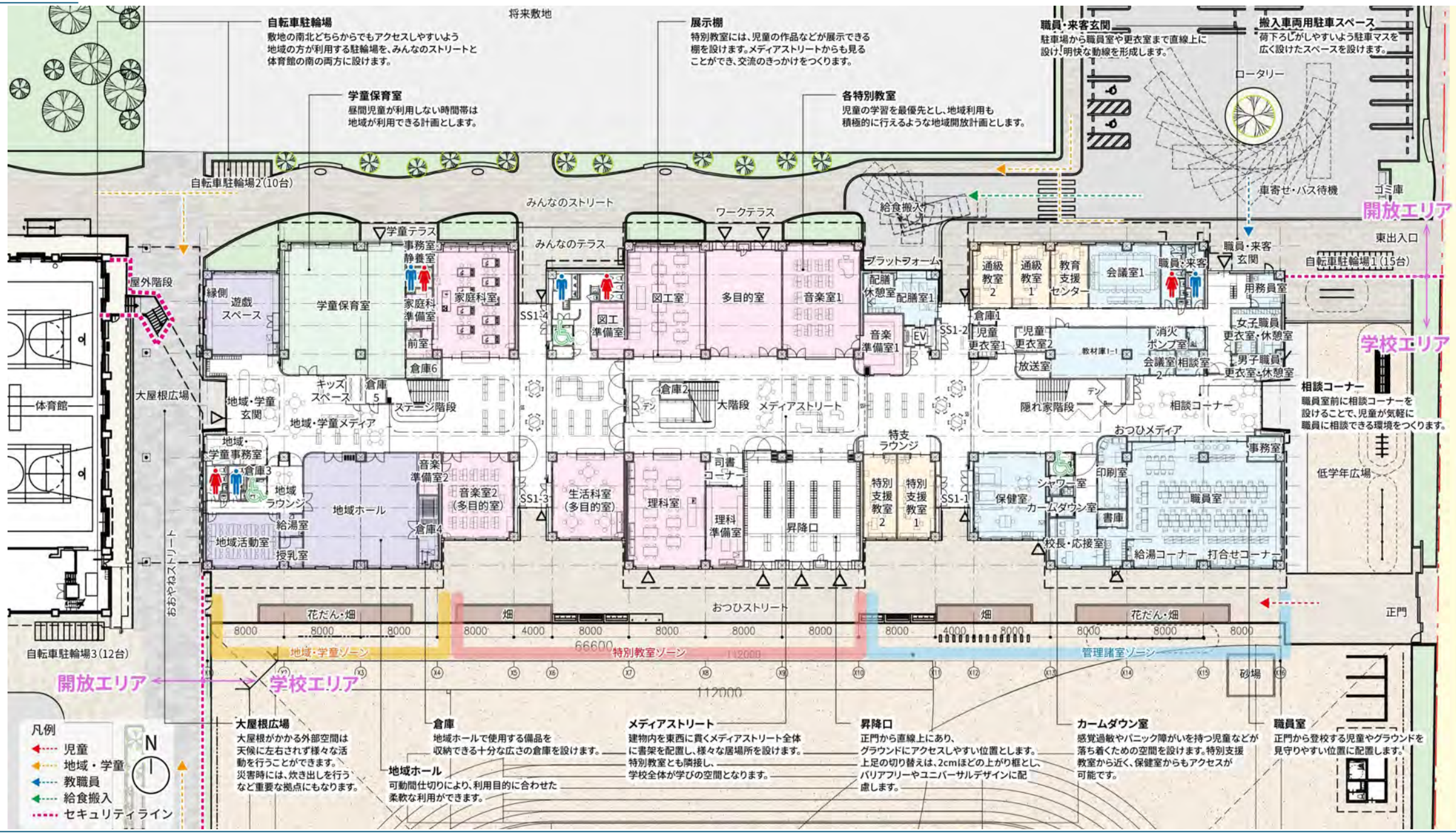
2階



1階

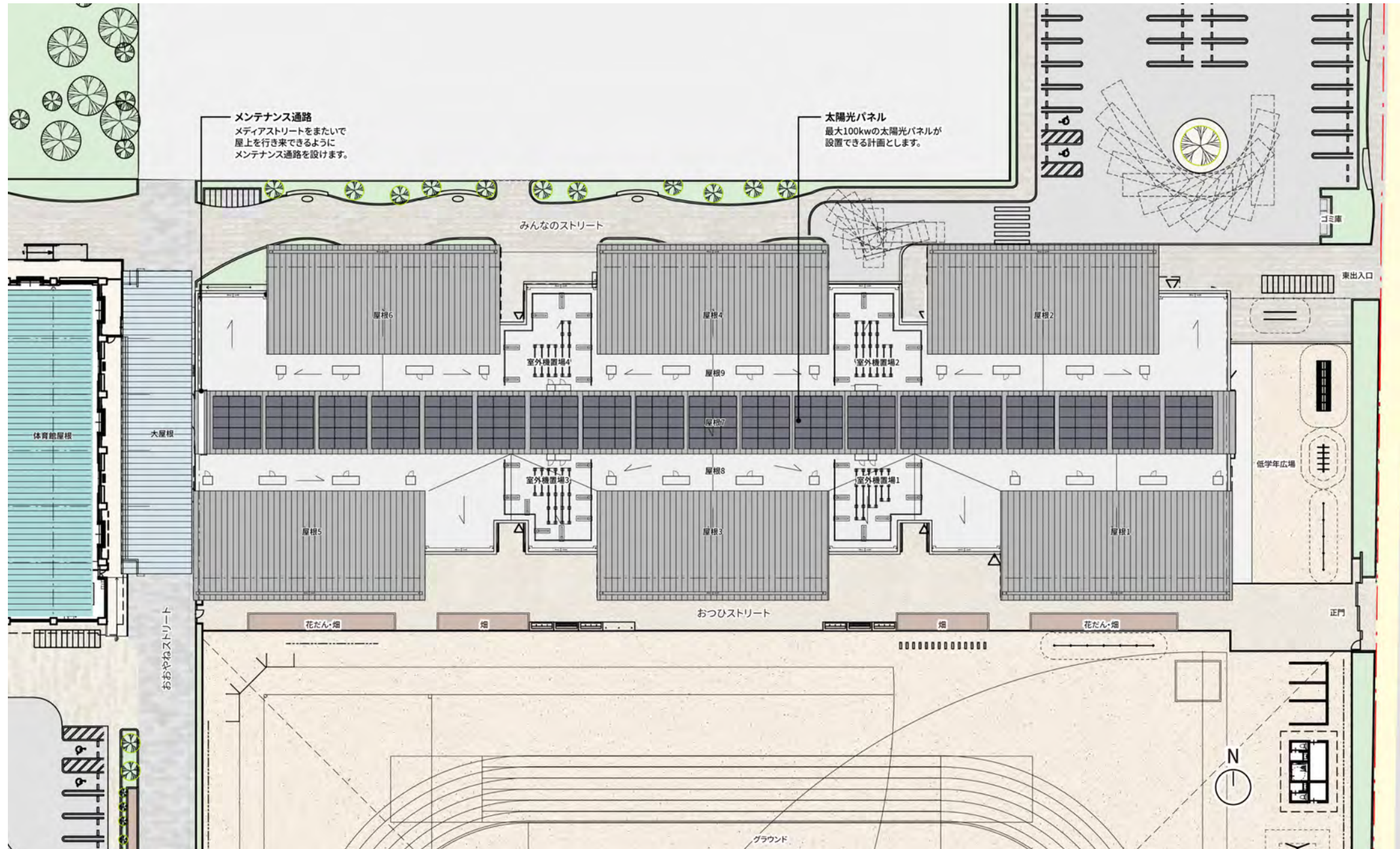


1階





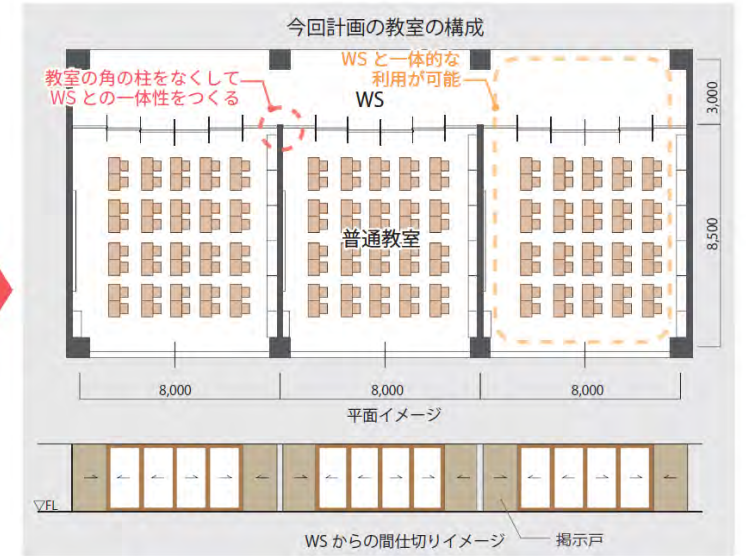
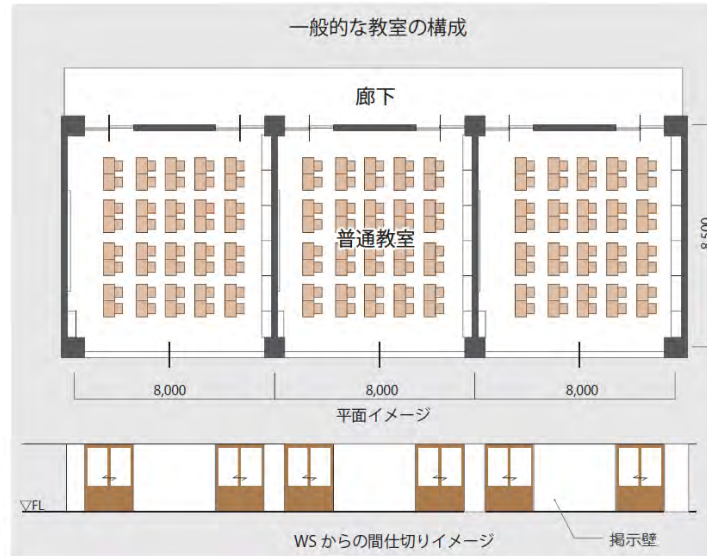
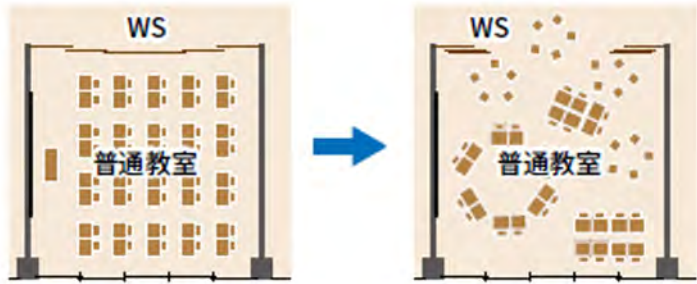
屋根伏図



平面計画

これからの多様な学びの受け皿となる構成のポイント

- ① 様々な学習を許容する教室 + α の WS を設ける。
- ② 教室と WS が一体性を高める柱配置とする。
- ③ 授業形態に合わせた活用ができる間仕切りとする。



パターン	通常授業	グループワーク (大グループ)	グループワーク (小グループ)	個別学習
活用シーン	正面の白板を利用した通常の授業	5人以上のグループワークを行う授業	3~4人程度の少人数でグループワークを行う授業	1~3人程度で個別学習を行う授業
レイアウト例				
WS 側からの間仕切りイメージ				

①交流が生まれる、ステージ階段

西側は階段や壁を活用し、学校だけでなく地域の活動拠点となります。日常的にはおしゃべりや遊び場として、イベント時にはステージとして活用したり映像投影をするなど、交流の場にもなります。

②学びが集う、大階段

幅の広い大階段は、発表会や集会などの場となります。階段裏はメディアストリートや特別教室とゆるやかにつながり、発信と学びの拠点となります。

③文化に触れる、隠れ家階段

階段と異なる角度を持つ隠れ家のような空間が、メディアセンターや職員室、相談コーナーなど、多方向へつながる居場所となります。

